

サタデー コラム

国や地方の課題に提言する経済団体、岐阜県経済同友会では、本年度二つの提言委員会を設置し、年度内の提言発表、発信に向け活動を進めています。

提言委員会の一つは多くの中小企業が直面する後継者難に対する「事業承継を考える委員会」で、もう一つは人手不足に対する「外国人材受け入れを考える委員会」です。

近隣8県の同友会が集う第27回経済同友会中央日本地区会議が岐阜市で開催されます。その大会テーマは「人手不足にどう対応するか」で、外国人労働者の適切な受け入れを議論します。

外国人労働者の受け入れについては、アメリカやドイツはじめEUの国々が進化させ、この2カ月間に外国人労働者に門戸を開く方向に大きく動きを切りしました。

このような背景の下、外国人労働者は増え続けるものと思われませんが、企業経営に携わる立場として外国人労働者に対する見解を変えなくてはならないと強く思うようになり、この機会に、外国人労働者の受け入れについて、日常生

外国人労働者と教育改革

中村正・秋田屋本店社長

の10代、20代の若者と比べ相対的に能力は高く、日本の若者より優れているといえます。まず眼が良く、手先が器用。重労働もこなし、意欲的で柔軟性に富み勤勉です。さらに心の面でも、スマートフォンの中には両

い出します。日本人は生活が豊かになり過ぎたため、本来の姿、勤勉さ、家族愛が薄れてしまったのかもしれない。そして何より教育制度や教育の質に問題があったとされます。わが国の教育問題は、経済力が低下しグローバル社会での存在感も低下する日本への警鐘と捉えます。抜本的に教育改革を進めなければ、借金ばかりが膨らむ日本の未来は暗くなるばかりです。日本復活のキーワードは教育改革です。私は、岐阜県教育委員会の「第3次教育ビジョン策定委員会」へ委員として参画するチャンスを与えられました。この委員会は来年度から5年間の県教育の基本方針を策定するものです。これを機に、かつて輝いた日本人の姿を取り戻し、教育改革の一助となるよう、教育ビジョン策定に着手したいと思っています。



なかむら・ただし
951年、岐阜市生まれ。1
博士(医学)。県経済同

友会筆頭代表幹事。岐阜南法人会長。県製菓協会長。みつばちの家理事長。県養蜂組合連合会長。県研究開発財団評議員。岐阜放送番組審議会委員長。県フエニンシグ協会長。県立岐阜北高校同窓会長。